

平成24年度事業報告書

社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

1. 「国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2012」は、例年の8月初めの開催では、各クラブのジュニアセーラーのOP級のいろいろな大会が7月～8月に集中して参加者の負担が大きいという声が多いことから、今年は5月のゴールデンウィークに開催することとしました。
2020年夏季オリンピック・パラリンピック大会の東京招致支援活動として、公益財団法人日本セーリング連盟、東京都ヨット連盟と共同主催をする事で、スポーツ振興くじtotoの助成金と東京都からの補助金を受けて、オリンピックのセーリング会場に予定されている東京都若洲ヨット訓練所に於いて開催しました。
2. 正会員が代表する登録クラブには、一昨年より、クラブのジュニアセーラーの名簿の提出と、その人数に応じたクラブ負担金の納入をお願いしておりますが、本制度についてのご理解とご協力を引き続きお願いします。
3. 平成20年に制定・施行された新公益法人制度に従って、当連盟は中川二郎常務理事を委員長とする「新公益法人対策委員会」を立ち上げて、さくら総合事務所に相談をしながら、理事会、総会で討議を進めた結果、「非営利型の一般社団法人」への移行申請をして、平成25年4月1日認可取得を目標に、内閣府に申請書類を提出、平成24年11月15日に受理されました。
その後、質問、書類修正等ありましたが、平成25年3月21日に移行認可を受け、4月1日付にて移行登記を完了し、新しく監督官庁となる内閣府と旧監督官庁の文部科学省への移行完了届けも済み、新発足しました。
4. 本年度の競技会事業は下記の通りです。

国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2012

平成24年5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝) 東京都若洲ヨット訓練所
第1回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ (ミキハウスカップ大阪2012)

平成24年9月22日(土・祝) 大阪市大阪北港ヨットハーバー
第22回ジュニアヨット国際親善レガッタ (ミキハウスカップ2012)
平成24年10月14日(日) 千葉県千葉市稲毛ヨットハーバー

(部門別詳細)

1. 総務関係部門

(1) 会員開発とクラブ登録促進 (総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会)

(イ) 平成23年度で3クラブが退会し、休会中の1クラブも退会しました。

平成24年度は3クラブが休会しましたが新たに3クラブが入会しました。

現在活動中の登録クラブは49クラブでその代表者である正会員は49名です。

- (活動クラブ) 49クラブ、休会 26クラブ(平成25年3月31日現在)
- (入会クラブ) 丸玉セーリングクラブ(代表者正会員:玉山貴章氏)
海陽海洋クラブ(代表者正会員:荒川 渡氏)
湖山池ドリームジュニア(代表者正会員:新家憲一郎氏)
- (休会クラブ) 野尻湖ジュニアヨットクラブ(代表者正会員:小山利男氏)、
藤沢市青少年セーリングクラブ(代表者正会員:山下弘雄氏)、
鶴岡市立温海中学校ヨット部(代表者正会員:柳澤浩氏)
千葉市立磯部中学校ヨット部(代表者正会員:山下泰氏)
- (退会クラブ) 玉造ヨットクラブ(代表者正会員:谷口晴彦氏—休会から退会)
佐島セーリングクラブ(代表者正会員:吉村茂氏平成23年7月逝去・退会)
クーパーリーフェーリングクラブ(代表者正会員:菖蒲保氏)
松山ジュニアヨットクラブ(代表者正会員:大槻映幸氏)
福岡ジュニアヨットクラブ(代表者正会員:河内孝明氏)
北九州ジュニアヨットクラブ(代表者正会員:河村啓氏)
B&G別府海洋クラブ(代表者正会員:濱本徹夫氏)

クラブの代表者以外の正会員は、理事11名、監事2名、委員2名(新入会:丸山晴久氏、林幹雄氏)、その他の方1名の16名となり、上記加盟クラブの代表者の正会員と合わせて正会員総数は65名です。

- (ロ) 賛助会員については、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」、「アサヒ飲料株式会社」の2社から引き続きご支援を頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ておりません。

(2) 地方水域担当理事の活動(総務委員会/普及渉外委員会)

地方水域担当理事(総括と東:小松勇一理事、東:中川二郎理事、西:内藤武夫理事、小野澤秀典理事)は、引き続き定例理事会、総会への出席や競技会、大会運営への参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門(指導育成委員会)

- (1) 平成23年度は、吉村前事務局長が病気療養中で入退院を繰り返していた等の事情で、公認指導員の更新、新規認定等の作業が着実に実行出来ていなかった為に、新たな公認指導員、準指導員の認定が出来ませんでした。公認指導員、準指導員の更新も出来ませんでした。

理事会で検討の結果、平成23年度に更新すべきであった公認指導員については全員を平成24年度に更新することとし、平成24年度から4年間有効とすることにしました。

平成25年3月31日現在の公認指導員は、平成21年度認定・更新者27名、平成22年度認定・更新者9名で、平成23年度更新予定者54名(含む理事・監事・委員13名)、平成24年度認定・更新予定者23名の合計113名が登録されており、

準指導員の登録はありません。

現在、平成23年度、24年度更新時期にあっていた公認指導員については、鋭意更新の確認作業中ですが、江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブの7名と理事6名のみが更新料を納入したのみです。

早急に平成25年度の新規認定を含めて事務手続きを進めます。

- (2) 指導者講習会を、平成24年度第二回通常総会（平成25年2月16日）に開催しましたが、平成25年度国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2013（和倉大会）の期間中にも指導者講習会を実施して、公認指導員の認定を実施する予定です。

3. 普及と広報活動部門

- (1) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会/普及渉外委員会）
本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012」については、公益財団法人日本セーリング連盟と東京都ヨット連盟との共同主催で、東京都の2020年夏季オリンピック・パラリンピック招致活動支援の競技会とすることで、スポーツ振興くじ toto の助成金に加えて、東京都からも後援を頂いて補助金を頂くことが出来ました。
- (2) B&G財団との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）
B&G財団に対し、その傘下海洋クラブの当連盟主催各競技会、大会への参加呼びかけをして頂くよう継続的に働きかけながら協力関係強化に努力しました。
- (3) クラス別協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）
当連盟登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇種であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等のクラス別協会とも連携を強化して、各艇種の普及と競技会への参加増を努力しており、競技会等に後援を頂きました。
- (4) 日本OP協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）
当連盟登録各クラブで最も多くの艇数を使用していて、当連盟主催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会との連携を強化すべく努力をしています。
- (5) 機関誌等の発行他（広報委員会）
前年度、平成23年3月に第82号を発行予定でしたが、広報委員長が勤務する企業の業務が多忙なことと、平成23年3月11日発生の東日本大震災の影響もあり編集、発行が遅れてしまい、年度内発行が出来ませんでした。
新年度に入っても状況は余り改善しませんでした。平成24年7月末に第82号を発行することが出来ました。
今回から、登録クラブから提出して頂いた各クラブ所属のジュニアセーラー個人個人にも直接送付しました。
連盟ホームページも少しずつ充実し、競技会のレース公示、帆走指示書等の情報提

供、競技会のレポート、写真、総会案内、議事録等を出来るだけ迅速にアップ出来るよう努力をしています。

(6) 競技会の開催（競技委員会）

(イ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012を、平成24年5月3日（木・祝）～5月5日（土・祝）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、7カ国の外国チームを招聘して、公益財団法人日本セーリング連盟、東京都ヨット連盟との共同主催で、スポーツ振興くじ toto の助成金と東京都からの補助金も頂いて、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致支援活動としての競技会として開催しました。又、一般都民にも広くアピールする為にクルーザーに乗船して子供たちのレースの観戦と応援をする体験乗船によってセーリング競技に関心を深めて頂きました。

8社の企業に呼びかけて、外国7チームをそれぞれ1カ国ずつ応援して頂くスポンサーとなって頂き、会場にも多数ご来賓頂き選手やコーチ・監督たちと交流をして頂きました。

参加クラブ 国内 20クラブ 参加選手83名、外国 7チーム 21名
合計27チーム 参加選手 104名（指導者・保護者・役員 190名）

(ロ) 第1回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウスカップ大阪2012）を平成24年9月23日（日）、大阪市の大阪北港ヨットハーバーを会場に、大阪北港ディンギークラブとの共同主催で、特別協賛の株式会社ミキハウスの本社のある大阪で初めて開催しました。

参加クラブ 8クラブ 参加選手36名 （指導者・保護者・役員 80名）

(ハ) 第22回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ2012）を、平成24年10月14日（日）、千葉県千葉市稲毛ヨットハーバーを会場に、千葉県セーリング連盟、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

当初は、例年通りに東京都若洲ヨット訓練所で開催予定で準備を進めていましたが、直前になって、2013年東京国体の為のハーバー整備工事の為に使用出来なくなり、急遽、千葉県セーリング連盟、千葉ヨットビルダーズクラブ、稲毛ジュニアセーリングクラブ、磯部第一中学校ヨット部、稲毛高等学校附属中学校ヨット部のご協力、稲毛ヨットハーバーを使用して開催出来るようになりました。

参加クラブ 14クラブ 参加選手 66名 （指導者・保護者・役員 120名）

(7) 諸外国との親善交流（普及渉外委員会/競技委員会）

(イ) 平成24年5月3日（木・祝）～5月5日（土・祝）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012に、ニュージーランド、韓国、ドイツ、デンマーク、オーストラリア、シンガポール、タイ王国の7カ国から、合計21名の選手と7名の指導者を招待し、選手、指導者、保護者、運営役員他招待者も含め国際交流会及び懇親会と2日間に渡る親善パーティーをしました。

今年は上記の国々に関係の深い企業に呼びかけて、それぞれのチームを応援・支援をして頂き、大型ヨットやモータークルーザーに乗船し観覧と応援をして頂いたり、交流会や懇親会にも出席頂いたりして交流を深めて頂きました。

- (ロ) 平成24年9月23日(日)、大阪市大阪北港ヨットハーバーで、初めての大阪市で開催のミキハウスカップ大阪2012において、前日の22日(土)、阪神地域にあるインターナショナルスクールの在日外国人生徒や家族を招待して、ヨット体験試乗等で交流・懇親をしました。
 - (ハ) 平成24年10月14日(日)、千葉市稲毛ヨットハーバー開催した、第22回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ東京2012)に、在日外国選手の招待を呼びかけましたが、例年の開催地である東京都若洲ヨット訓練所が急遽稲毛ヨットハーバーに変更されたこともあって、残念ながら参加がありませんでした。
 - (ニ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011のクラブ対抗レースの1位から3位のクラブに特別賞を設けて、各クラブ1名の選手を海外セーリング研修に派遣する事としました。同じクラブから自費参加希望の1名を加えた計4名を、小野澤秀典理事の引率のもと、ニュージーランド北島オークランド市において、3月28日から4月3日までの期間、現地3家族にそれぞれホームステイをして、海外研修を実施し、国際交流の成果を上げました。
 - (ホ) 関東水域OP連絡会にお願いして、関東水域OP連絡会が毎年春休みに実施しているタイ王国でのタイクリニック研修に、当連盟の推薦するクラブの選手を派遣して合同参加させて頂くこととしました。これには、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011の特別賞として、クラブ対抗レースの第7位と第10位のクラブの各1名の選手を派遣することとしました。
3月24日から4月1日、熊川博委員・事務局長が引率して参加して、タイ王国の選手と日本選手が二人ひと組での同室合宿で交流・親睦を深めました。
- (8) ジュニアヨットクラブの安全対策事業(指導育成委員会/普及渉外委員会)
- (イ) 平成24年5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝)、東京都若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012において、3日の開会式後、国際交流会の前に、大塚製薬(株)よりのポカリスエットの提供を頂いて選手、指導者、保護者に当連盟中川常務理事が安全講習会を実施しました。
 - (ロ) 平成25年2月16日開催の通常総会の終了後に指導者講習会を実施し、その機会に、併せて安全講習会を実施予定です。

以上